

豊岡市教育研修センターだより



豊岡市教育委員会 R6(2024).11.21

No. 13

豊岡市のホームページにもアップしています。

豊岡市 HP→上段「くらし」→右下「教育・学校」→「教育研修センター」へ

市内各校で質の高い「校内研修」が展開されています！

豊岡市学力向上検討委員会からの提案（校内研修担当者研修会より）

提案①知識や技能を活用する授業づくり

授業前半で習得した知識や技能を活用し新たな課題を解決したり表現したりする活動を取り入れましょう！

提案②「^{りよく}コミュニカ4視点」を活用した授業づくり

教科の授業の中で「めざすコミュニケーション能力育成の4つの視点」を積極的に活用しましょう！

提案③思考法を活用した授業づくり

本時の目標を達成することが大切です。そのために、どの思考法が有効かを考えて授業に取り入れましょう！

提案④ズレを生み出し、見つけ、生かす授業づくり

- ・子どもたちの多様な考えを引き出す発問をしましょう！【ズレを生み出す】
- ・子どもの発言の何が同じで、何が異なるかを見つながら聴きましょう！【ズレを見つける】
- ・本時の目標の達成に向けて話題を焦点化し再提示（追発問）しましょう！【ズレを生かす】

□校内研修の好事例

【A小学校】

◆研修担当者会や、各教科担当者会等で得た情報（研修内容）は、学校行事等のタイミングも見計らって、確実に伝達する。〔例〕コピー資料配布／口頭説明／プレゼンによるレクチャー／研究通信 など

◆①個の考えの持たせ方の指導→ inputのさせ方を指導（学年に応じた3Dの指導）

②対話による吟味のさせ方→教材／仲間に潜む“ズレ”を生かした思考・判断させる場を意図的に設ける（教師の意図的関与）

③outputをこれからの学習にどう生かさせるか。→単元を通して培われた集大成が、まとめ・振り返り・成果品等にどう表せているか。何ができるようになったか、使ってみてどうだったか。

①～③を意識した「観（＝児童観・教材観・指導観）」を磨くことを目指した研修（＝授業者も参観者も得をする研修→授業力向上へ）

①事前研修会のあり方 ※共同研究者（授業者の相談役）を設定

授業者の悩みを打ち明ける場 →授業視点の焦点化へ

授業の山場／見所／授業者の悩みを共通理解し、必要に応じて具体策を練り合い、実践に臨む。

②公開授業のあり方 ※発話記録を役割分担し、必ず取っておく。

事前研で共通理解した内容や、提案部分を中心に参観し、各個人でも主だった発話を記録しておく。

③事後研修会のあり方 ※授業の教師版という位置づけ

発話記録（事実）をもとに、各自の省察を考え、一人ずつ付箋を貼りながら語っていく。若手・ベテラン関係なく語れる雰囲気をつくる。〔ポイント〕1時間程度で終わる計画的な研修 ※短すぎ、長すぎ▲

□校内研修の好事例

【B小学校】

- ◆参観シートの中に「めざす児童の姿」を明記し、観点に沿って児童の学びの姿(学びが深まった場面・学びが滞った場面)を共有し、そこから協議事項を焦点化し、事後研修を進めている。
- ◆講師の方から学んだ×チャートやクラゲチャートなどの思考ツールを手段とし、本校の研修テーマである、「比較・分類・関連づけ」を指導案の中に組み込みながら、授業実践を積み重ねている。
- ◆ロイロノート等を有効活用して協働的な学びの充実を図り、一人ひとりの考えを可視化できるよう工夫している。
- ◆探究的な学習を充実させるために、地域貢献に繋がるテーマや活動を設定し、主体性を高めている。
- ◆言語活動や表やグラフの読み取り、ICTの活用など教科等での学びを総合的な学習や生活科の中で生かし、教科横断的な学習を進めている。

【C中学校】

- ◆相互授業参観週間を設けたあとに全体教科研修を行った。
- ◆相互授業参観週間では、「いいねを伝え合う」と題して、短時間でも参観してみるという活動を行った。「ワーキングメモリの観点 授業デザインチェックリスト」等を活用して参観することで、漠然と見るのではなく、焦点を絞って見る事ができた。昨年度に比べ、参観者が増え、前向きに取り組む職員が増えた。
- ◆全体教科研修では、国語、数学、家庭科を3教科の授業を同日同時刻に行った。共通のテーマとして、①発問の工夫により思考のズレを生み出す。②子どもの発言からズレを見つけ、ズレを生かす。の2つを挙げた。全職員が、いずれかの授業を参観し、研究協議を行うことで、教科をまたいで多様な視点から議論を交わす事ができた。その後、協議内容を全職員で共有することで、より多くの学びを得られた。生徒のズレだけでなく、職員の見え方・考え方のズレを見つけ、語りあうことで、授業づくりについて深められた。校内研修の取り組みは、定期的に研修日より発行することで、事後の振り返りがしやすいように留意した。

【D中学校】

- ◆「教科担当が1人で、教科ごとの研修ができない」「互いの授業を見たい」という職員からの要望を受け、教科をこえて互いの授業を参観する機会を設けた。教科をこえて参考になれる視点として、研修のテーマである「個に寄り添った指導」を中心とすることにした。各職員が空き時間に取り組みやすいように、事前に「各教科担当者がテーマを見据えて授業で大切にしていること」をExcelに入力し、それを見て参観を自由な時間に行うという形態で行った。参観後には感想を書き、授業者に還元した。

【E小学校】研修日より

★「目の前の子どもたち」をしっかりみとった授業づくりのために、各校において先生方の真摯な研修が展開されています。

1時間の授業の中で、子ども一人一人が学びに向かう工夫をどう取り入れるか。

管理職の先生、研修担当の先生、日々の授業を展開される先生方等、すべての先生方がチームとなって校内研修を推進されています。

令和6年度の下半期、各校の好事例も共有しながら、さらに質を高めていきましょう！

